

# 講演大会講演申込書記入要領およびコード表

1. 申込み講演と別に連続して同時発表を希望する講演(連報)がある場合には、その予定講演者を記入する。
2. 申込み講演の発表を希望する部会の□内にX印を記し、中分類項目について下表のコードにより希望順に最大3つを記入する。

高温プロセス(100)			材料の組織と特性(300)						計測制御システム工学(600)					
大分類	コード	中分類	大分類	コード	中分類	大分類	コード	中分類	大分類	コード	中分類			
プロセス基礎 (110)	111	熱力学	相変態 (310)	311	状態図	その他の特性 (470)	471	熱・エネルギー性	計測・検査	601	制御			
	112	移動現象		312	拡散		472	エコマテリアル性		606	情報システム			
	113	高温融体物性		313	凝固		473	リサイクル性		611	FA・CIM			
	114	組織形成・凝固		314	偏析		474	インテリジェント性		616	画像処理・信号処理			
ノーブル プロセッ シング (120)	121	プラズマプロセッ シング		315	介在物		各種特性と 組織・構造 関連(480)	481 482		特性・材質予測 データベース	621	自動化・省力化		
	122	材料電磁プロセッ シング		316	拡散・無拡散変態	626					生産管理・計画			
	123	先端材料製造		317	時効・析出	631			物流システム					
	124	表面プロセス		318	回復・再結晶・粒成長	641			知能化・人工知能応用					
	125	金属製精錬		319	集合組織	646			プラント計装					
製鉄原料 処理 (130)	131	石炭・コークス		組織制御 (330)	331	熱処理, 加工熱処理	評価技術 (490)	491	信頼性評価	651	設備診断・保全,			
	132	原料・焼結			333	集合組織制御処理				511	純鉄・極低炭素鋼	656	情報処理	
	133	塊成化処理 (ペレット)			表面技術 (340)	341				溶融めっき	512	低炭素鋼(C<0.2%)	661	プロセス解析
	134	設備				342				電気めっき	513	中・高炭素(C>0.2%)	666	その他
製鉄 プロセス (140)	141	高炉				343				気相めっき	514	低合金鋼	創形創質工学(700)	
	142	還元鉄		344		化成・機能処理	515	合金鋼						
	143	設備	345	塗装・塗覆装	516	高合金鋼	701	厚板製造						
	144	耐火物	346	溶射	517	機械構造用鋼	706	厚板利用						
	新製精錬 (150)	151	溶融還元	材料設計 (350)	351	状態図計算	材料の 種類 (510)	518	ステンレス鋼	711	薄板・箔材製造			
152		スクラップ	352		現象のモデリング	519				電磁鋼	716	薄板・箔材利用		
153		新鉄源	353		組織予測	520				耐熱鋼・超耐熱合金	721	表面処理材製造		
精錬 (160)		161	溶鉄処理		354	データベース				521	工具鋼	726	表面処理材利用	
	162	電気炉	分析・ 解析技術 (370)		371	結晶構造解析技術				522	Al・Zn金属被覆鋼	731	形・条材製造	
	163	転炉		372	状態分析	523	Sn等金属被覆鋼	736	形・条材利用					
	164	二次精錬		373	表面分析技術	524	非金属被覆鋼	741	棒・線材製造					
	165	ステンレス・ 高合金鋼		物理的 特性 (390)	374	介在物・析出物・ 元素分析	525	有機被覆鋼	746	棒・線材利用				
166	耐火物	391			磁気特性	526	チタン系材料	751	管材製造					
凝固 プロセス (170)	171	普通連続铸造	392	電気的特性	527	複合材料	756	管材利用						
	172	ニアネットシェイブ	393	熱的特性	528	軽量合金	761	鋳鍛品製造						
	173	特殊铸造, 半凝固	394	光学特性	529	金属間化合物	766	鋳鍛品利用						
	174	铸片品質	力学的 特性 (410)	411	変形・破壊機構	530	セラミックス	771	鋼構造品製造					
	175	耐火物		412	弾性特性*A	531	低融点合金	776	鋼構造品利用					
プロセス 評価・ 分析 (180)	181	人工知能		413	強度, 変形特性*B	532	接点・接合・溶接材料	781	粉粒体・製品製造					
	182	サンプリング		414	破壊挙動*C	533	粉末材料	786	粉粒体・製品利用					
	183	微量分析・ガス分析		加工 特性 (430)	431	加工性	534	各種機能材料	791	ロール・工具・潤滑				
	184	迅速分析・直接分析	432		成形性	535	生体材料	796	数値モデリング					
	185	結晶構造解析技術	433		被削性	536	その他の材料	801	接合・結合					
	186	結晶構造解析技術	434		溶接性	537	形状全般(総括)	806	切断・切削					
	187	状態分析	化学的 特性 (450)		451	表面構造	538	厚板	811	設備・保全				
	188	表面分析技術		452	表面電気化学	551	熱延鋼板	社会鉄鋼工学(900)						
189	介在物・析出物・ 元素分析	453		各種表面反応	552	冷延鋼板								
190	有機関連分析	454		各種表面処理材 の特性	553	条(形・棒・線)								
191	標準化分析	455		腐食・防食機構	554	管								
リサイク ル・環境・ エネルギー (190)	192	環境分析	456	耐食性, 耐酸化性	555	鍛鋼, 鋳鋼, 鋳鉄	901	鉄鋼グローバル エコロジー						
	193	環境分析	457	応力腐食	556	その他の形状	906	鉄鋼開発経済						
	194	都市廃棄物	458	水素吸蔵特性	557		911	鉄鋼社会動態						
	195	スラグ・ダスト	459	生体適応性	558		916	鉄鋼資源循環システム						
			460	触媒反応			921	鉄鋼産業リソース						

3. 講演申込は講演発表者一人当たり3件以内に限られる。一講演当たり、プログラム掲載の著者は6名以内とし、それぞれの勤務先・所属略称を下記の例にしたがって記入する。講演発表予定者は、申込受付後の諸連絡が迅速・確実にとれるように、連絡先住所・所属部署、電話およびFAX番号を正確に記入する。学生は学生欄の該当するものに○印を付ける。  
**勤務先所属欄記入例:** 東大工, 東北大素材研, 川鉄鉄研, 神鋼加古川, 新日鉄プロ研, 住金未来研, NKK総研, 金材研

4. 学生ポスターセッション発表希望者は、申込分類欄の学生ポスターセッションと該当する部会にX印を付け、題目、そして著者欄に発表者と指導教官を明記する。

5. 本申込書記載の講演題目はプログラム掲載原稿となり、和文、英文とも講演論文原稿と同一とする。連報の場合には申込講演の具体的な内容を表す主題に添えて、括弧内に一連の報告内容を包括する題目に一連番号を付した副題を記載する。

**連報題例:** 野呂景義と日本鉄鋼協会の創立(日本鉄鋼協会の歴史-1)

6. 講演要旨の記入要領

著者抄録の形で能動態を用いて、日本語150字程度で本要旨だけを読んでも講演内容が把握できるように、目的、対象、方法、結果、結論を記述し、本文中の図表や数式は引用せず、用字・用語を統一する。また抄録自体内で定義を与えない限り、広く慣用されていない術語、略記、記号は使用しない。欧字術語は慣用のカナあるいは欧字表記を用いるが、慣用されていない場合には原語あるいは括弧内に(原語)を付記した適切な邦訳語で表す。抄録には題目が必ずともなうので標題で分かることを繰り返さず、標題中の長い語句は、たとえば「標題欄」のようにして、反復を避ける。

手書きの場合は枠目に一字づつ明瞭に書き込み、またワープロで別紙にプリントしたものは枠内に貼り付けてください。